

日本の伝統色めぐり

今月は日本の伝統色を紹介します。健康づくりは、何よりも続けることが大切！ご愛用商品を選んで、このカレンダーに日付を記入。飲み忘れをなくし、健やかな毎日を送りましょう。

使い方 空欄に飲んだ日の日付を記入して、1マスずつ進んでいきましょう！

4 / 8 / 5

スタート

色と時代背景は関わっているんだね！

1 紅 べに 花卉の先を摘んで着物の染料や化粧品等に用いられた。	2 躑躅 つつじ 躑躅の花が由来で平安朝の装束である襲の色目になっている。	3 紅梅 こうばい 紅梅の花が由来となり、明治・大正に一般的に普及した。	4 鶺鴒色 ときいろ 特別天然記念物に指定されている鶺鴒の美しく飛ぶ姿が由来。	5 一斤染 いっこんぞめ 紅花一斤で二反の絹を染めた時の淡い色から名付けられた。	6 桜 さくら 桜の花への愛好とともに、平安時代から用いられている。
--	---	--	---	--	--

12
珊瑚色
さんごいろ
黒髪に珊瑚の赤がよく映えることから髪飾りに用いられた。

11
柿
かき
平安末期から使われており、歌舞伎の定式幕の縦縞に用いられる。

10
黄丹
おうに
顔料の名称のひとつ。万葉以前の時代には絵の具にも用いられた。

9
刈安
かりやす
刈安というイネ科の植物を乾燥させて染料にしていた。

8
玉子色
たまごいろ
茹で卵の黄味のような淡い黄色をさす色。

7
砥粉色
とのこいろ
刃物を研ぐ際に砥石から出る粉末で漆器などの下塗りに用いられた。

お菓子の飲み忘れはありませんか？

えび...?

13
雀茶
すずめちや
雀の頭部から背にかけての色が由来とされる。

14
煤竹
すすたけ
竹がすすけて古色をおびたもので、江戸時代中期に流行した。

15
黄櫨染
こうろぜん
天皇が儀式に穿着る正式袍の色で、禁色とされていた。

16
鶯
うぐいす
鶯の羽毛からきた色名で江戸時代以降に用いられている。

17
麴塵
きくじん
天皇の平常時の袍の色とされ、禁色とされていた。

18
萌黄
もえぎ
春先に草や木の葉の萌え出る緑の色で平安朝の頃から用いられた。

24
葡萄色
えびいろ
現代では「ぶどう」と読むが昔は「えび」と読んでいた。

23
半
はした
半とは中間の意味で濃い色と薄い色の中間の色のことをさす。

22
藤
ふじ
各時代で婦人の服色として好まれ、そのときどきの流行色になる。

21
裏葉
うらは
草や木の葉の葉裏のような白味を持っている緑色をいう。

20
木賊
とくさ
シダ類の一種の植物が由来で、砥草とも書く。

19
千歳緑
ちとせみどり
常緑の松の緑という意味から、縁起に因んだ美称である。

昔は、着ていい色と着てはいけない色があったんだ。

色のひとつひとつに意味があるのね！

25
桔梗
ききょう
平安朝の頃より使われた色名で、実際の花より濃く青みの強い紫。

26
瑠璃
るり
日本で古来より七宝の一つとして珍重された宝石が由来。

27
縹
はなだ
藍染で使われる色名で、正色として五色中の青に対応している。

28
空
そら
正に青空という意味で同じように真空色とも使われている。

29
素鼠
すねず
鼠色のなかでもとくに色味を含まない中間的な色。

30
純白
じゅんぱく
最も白という意味で用いられる色である。

令和 慶祝カラー



令和が「万葉集」の梅花の歌32首の序文をもとに選ばれたことから、春の訪れを知らせる日本の代表的な花にちなんで選定。「自然の美しさを愛でる穏やかな日々が未来永劫続くように」という願いが込められている。

ゴール